



組織部速報

2023年 6月16日
No. 73

南相馬市鎮魂復興市民植樹祭へ参加

6月11日、小雨の中「第11回南相馬市鎮魂復興市民植樹祭」が開催され、貨物労組は中央本部1名と東北地本6名で参加しました。

この植樹祭は東日本大震災時の津波で犠牲になった方々を慰霊するため2013年から始まりました。震災で発生した瓦礫（再生資材）を活用した土手をつくり、そこに植樹をして防潮堤を築き、震災の教訓を後世に継承する「鎮魂の森」をつくっています。



式典の前に、震災で犠牲になった方々へ黙とうを捧げました。その後、森びとプロジェクト代表の桜井勝延実行副委員長の開会宣言から始まり、植樹方法などの説明を受けて植樹が開始されました。

会場に移動し、タブやカシ等の21種類の苗木を土手に運び「宮脇方式」で植樹しました。「宮脇方式」とは在来の多様な樹種を混ぜた上で密植し、苗木を互いに競争させながら成長させ、様々な生物と共存して豊かな森を

20年～30年でつくるといえるものです。木が枯れたり、風で飛ばされたりしないようにするため植えた苗木の周りに、後に養分となる小さく切った藁をかけた後、藁が飛ばないようにさらに長い藁を引き、縄を張って押さえました。植樹はただ植えるだけでなく、すくすくと成長をしてもらうために何段階もの工程を行います。

近年は新型コロナウイルスの影響もあり、参加人数が減少しています。今こそ、自分や家族・友人を守るため、後世の子供たちのために「命を守る」活動を続けていきましょう！

